

その他の言語の漢字音 漢字とその音が中国の周辺言語に移植された結果生じた字音には次のものがある。【中国少数民族語の漢字音】中国の少数民族のなかに漢字および漢字を變形した文字を使用して自らの言語を表記する人たちがいる。広西壮族自治区を中心に分布するチワン族(壮族)がその一つでチワン語(一説にはカム・タイ語群のタイ諸語に属す言語とする)を表記するために古壮字と称される漢字系文字を使用してきた。古壮字にみられるチワン語(武鳴方言)の漢字音の特徴は次のとおり。①中古漢語音の破裂音声母には無声無気音**p-* **t-* **k-*と無声有気音**p^{h-}* **t^{h-}* **k^{h-}*と有声音**b-* **d-* **g-*の区別があるが、その区別は反映されず一律に無声無気音の *p-* *t-* *k-*となる。例えば、比(**p-*)嘯(**p^{h-}*)賠(**b-*)と滯(**t-*)踏(**t^{h-}*)大(**d-*)と公(**k-*)可(**k^{h-}*)擊(**g-*)は、比嘯賠(*p-*)・滯踏大(*t-*)・公可擊(*k-*)となる。このように中古漢語音の無声有気音が無声無気音となるのは *p^{h-}* *t^{h-}* *k^{h-}*など無声有気音のないチワン語(武鳴方言)の音韻による訛りである。中古漢語音の有声音が無声無気音となることについては検討を要する。カム・タイ語には有声破裂音の *b-*と *d-*が広く認められ武鳴方言にもあるが、中古漢語音の**b-*と**d-*に対して無声音の *p-*と *t-*を当てるのは漢語原音が無声化していた可能性を示唆するものである。②中古漢語音の鼻音韻尾**-m* **-n* **-ŋ*は*-m* *-n* *-ŋ*となり、閉鎖音韻尾**-p* **-t* **-k*は*-p* *-t* *-k*となる。例えば、音(**-m*)本(**-n*)濃(**-ŋ*)は音(*-m*)本(*-n*)濃(*-ŋ*)となり、踏(**-p*)凸(**-t*)特(**-k*)は踏(*-p*)凸(*-t*)特(*-k*)となる。音節末子音の*-m* *-n* *-ŋ*と*-p* *-t* *-k*はカム・タイ語に広くみられ、これらと中古漢語音の韻尾の間には対応がある。これはチワン語(武鳴方言)が拠った漢語原音に中古漢語音の韻尾と同様の韻尾が保存されていたことを示す。③中古漢語音の破擦音声母**ts-* **tʂ-* **tɕ-*などは無声齒莖硬口蓋摩擦音 *ɕ-*となり、**s-* **ʂ-* **z-* **dʒ-*など摩擦音と一部の破擦音は無声齒摩擦音*θ-*となる。例えば、總(**ts-*)掙(**tʂ-*)針(**tɕ-*)は總掙針(*ɕ-*)となり、相(**s-*)双(**ʂ-*)時(**z-*)乘(**dʒ-*)は相双時乘(*θ-*)となる。これはチワン語(武鳴方言)に破擦音がなく、ただ2種の摩擦音 *ɕ-*と*θ-*があることによって生じた訛りであるが、旧破擦音と旧摩擦音の区別は摩擦音の *ɕ-*と*θ-*によって保たれる。以上がチワン語(武鳴方言)の漢字音である。中国の南部にはこのような漢字系文字を使用する少数民族は少なくなく漢字音を

持つ言語の候補となる。【ウイグル漢字音】これは漢文(仏典など)を音読する習慣によって漢字音が定着した例である。ウイグル語文献は9世紀から14世紀の間にトルファンや敦煌などで書き残されたもので、そのなかに漢文仏典を音読しそれをウイグル文字で表記した資料や難読字に音注を付した資料がある。これらの資料によりウイグル人がウイグル漢字音を定着させていたことがわかる。例えば元朝時代に漢訳された『聖妙吉祥真實名経』のウイグル文字表記漢文の音は、漢語訳された時代よりも3~4世紀古い時代の漢語西北方言音をウイグル語訛りで読んだものとされる。その漢字音の特徴は次のとおり。①中古漢語音の鼻音声母*m- *n-などは一定の条件に従ってb- d-などとなる。例えば、密(*m-)満(*m-n)明(*m-ŋ)と泥(*n-)能(*n-ŋ)は、密(b-)満(m-)明(m-)と泥(d-)能(n-)となる。これは唐五代の西北漢語音において鼻音声母*m- *n-などの非鼻音化 denasalization が韻尾*-n *-ŋの無い音節において進行していたことの反映である。このような西北漢語音の反映は、日本の漢音で密(ビツ)泥(デイ)などとする場合に類似する。②中古漢語音の軟口蓋鼻音韻尾*-ŋは一定の条件に従って脱落する。例えば、当(*-aŋ)名(*-eŋ)等(*-əŋ)中(*-uŋ)は、当(-Ø)名(-Ø)等(-ŋ)中(-ŋ)となる。このように*-ŋが先行する母音の異なりにより表記されないのも西北漢語音の反映である。③中古漢語音の閉鎖音韻尾*-p *-t *-kは-b -rおよび-g~γとなる。これは古い特徴が保存されたものであるが、力(-ig)楽(-aγ)など先行母音の異なりにより、ウイグル文字{k}と{q}を用いて-g と-γに表記し分けるのはウイグル語の訛りである。④中古漢語の*ts- *ts^h- *dz- *s- *z-は一斉にs-で表記される。⑤中古漢語の介音の*-i- *-u- *-iu-などは核母音と縮合する。④と⑤もウイグル語の音韻の影響による訛りである。

〔吉池孝一〕

〔文献〕

韋慶穩・覃国生：『壮語簡誌』（民族出版社，1980）。高田時雄：ウイグル字音考（『東方学』70，1985）。庄垣内正弘：文献研究と言語学 ―ウイグル語における漢字音の再構と漢文訓読の可能性―（『言語研究』124，2003）。吉池孝一：周辺言語の漢字音（『KOTONOHA』（古代文字資料館）106，2011）。

【2011年10月書き終わる】